

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2023.5.1-7

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

13:1 その後のことである。ダビデの子アブサロムに、タマルという名の美しい妹がいた。ダビデの子アムノンは彼女に恋をした。
13:2 アムノンは、妹タマルのゆえに苦しんで、病気になるほどであった。というのは、彼女が処女であって、アムノンには、彼女に何かをするということとはとてもできないと思われたからである。
13:3 アムノンには、ダビデの兄弟シムアの息子でヨナダブという名の友人がいた。ヨナダブは非常に知恵のある男であった。
13:4 彼はアムノンに言った。「王子様。なぜ、朝ごとにやつれていかれるのですか、そのわけを話してください。」アムノンは彼に言った。「私は、兄弟アブサロムの妹タマルを愛している。」
13:5 ヨナダブは彼に言った。「床に伏せて、病気のふりをなさってください。父君が見舞いに来られたら、こう言うのです。『どうか、妹のタマルをよこして、私に食事をとらせるようにしてください。彼女が私の目の前で食事を作って、私はそれを見守り、彼女の手から食べたいのです。』」
13:6 アムノンは床につき、仮病を使った。王が見舞いに来ると、アムノンは王に言った。「どうか、妹のタマルをよこし、目の前で団子を二つ作らせてください。私は彼女の手から食べたいのです。」
13:7 ダビデは、タマルの家に人を遣わして言った。「兄さんのアムノンの家に行って、病人食を作ってあげなさい。」
13:8 タマルが兄アムノンの家に行ったところ、彼は床についていた。彼女は生地を取ってそ

れをこね、彼の目の前で団子を作ってそれをゆでた。

13:9 彼女は鍋を取り、それを彼の前によそったが、彼は食べることを拒んだ。アムノンが「皆の者をここから出て行かせよ」と言ったので、みなアムノンのところから出て行った。

13:10 アムノンはタマルに言った。「食事を寝室に持って来ておくれ。私はおまえの手からそれを食べたい。」タマルは、自分が作ったゆでた団子を兄のアムノンの寝室に持って来た。

13:11 彼女が食べさせようとして、彼に近づくと、彼は彼女を捕まえて言った。「妹よ、おいで。私と寝よう。」

13:12 彼女は言った。「いけません。兄上。乱暴してはいけません。イスラエルでは、こんなことはしません。こんな愚かなことをしないでください。」

13:13 私は、この汚名をどこに持って行けるでしょうか。あなたも、イスラエルで愚か者のようになるのです。今、王に話してください。きっと、王は私があなたに会うのを拒まないでしょう。」

13:14 しかし、アムノンは彼女の言うことを聞こうともせず、力づくで彼女を辱めて、彼女と寝た。

アムノンのように、異性を恋をすることはよくあることです。またヨナダブのような悪友もよくいます。ヨナダブはここではただ、「タマルの手からそれを食べたい」ということを願うようにとの浅はかな入れ知恵でしかありません。もしかしたらアムノンの行動は計画的だったのかもわかりません。

しかし結果的に事実として、タマルを「はずか

しめて、これと寝た」のです。

それらは神様がダビデの罪に対して宣言なさったことであり、親であるダビデと同じく異性関係の罪でありました。罪の結果が大切な共同体をも破壊するものであることを知りましょう。もしも罪に気づいたなら、主の哀れみを求め、直ぐに悔い改めるようにしましう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 火曜

Ⅱ サムエル



13:15 アムノンは、激しい憎しみにかられて、彼女を嫌った。その憎しみは、彼が抱いた恋よりも大きかった。アムノンは彼女に言った。「起きて、出て行け。」

13:16 タマルは言った。「それはなりません。私を追い出すなど、あなたが私にしたあのことより、なおいっそう悪いことですから。」しかし、アムノンは彼女の言うことを聞こうとせず、

13:17 召使いの若い者を呼んで言った。「この女をここから外に追い出して、戸を閉めてくれ。」

13:18 彼女は、あや織りの長服を着ていた。昔、処女である王女たちはそのような身なりをしていたのである。召使いは彼女を外に追い出し、こうして戸を閉めてしまった。

13:19 タマルは頭に灰をかぶり、身に着けていたあや織りの長服を引き裂き、手を頭に置いて、泣き叫びながら歩いて行った。

13:20 彼女の兄アブサロムは彼女に言った。「おまえの兄アムノンが、おまえと一緒にいたのか。妹よ、今は黙っていなさい。彼はおまえの兄なのだ。このことで心配しなくてもよい。」タマルは、兄アブサロムの家で、一人わびしく暮らしていた。

13:21 ダビデ王は、事の一部始終を聞いて激しく怒った。

13:22 アブサロムはアムノンに、このことが良いとも悪いとも何も言わなかった。アブサロムは、アムノンが妹タマルを辱めたことで、彼を憎んでいたからである。

13:23 満二年たって、アブサロムがエフライムの近くのバアル・ハツオルで羊の毛の刈り

取りの祝いをしたとき、アブサロムは王の息子たち全員を招いた。

13:24 アブサロムは王のもとに行き、こう言った。「ご覧ください。このしもべは羊の毛の刈り取りの祝いをすることにしました。どうか、王も家来たちも、このしもべと一緒においでください。」

13:25 王はアブサロムに言った。「いや、わが子よ。われわれ全員が行くのは良くない。あなたの重荷になってもいいけないから。」アブサロムは、しきりに勧めたが、ダビデは行きたがらず、ただ彼に祝福を与えた。

13:26 アブサロムは言った。「それなら、どうか、私の兄アムノンを私どもと一緒に行かせてください。」王は彼に言った。「なぜ、彼があなたと一緒に行かなければならないのか。」

13:27 アブサロムがしきりに勧めたので、王はアムノンと王の息子たち全員を彼と一緒に行かせた。

13:28 アブサロムは、自分に仕える若い者たちに命じて言った。「よく注意して、アムノンが酔って上機嫌になったとき、私が『アムノンを討て』と言ったら、彼を殺せ。恐れはならない。この私が命じるのではない。強くあれ。力ある者となれ。」

13:29 アブサロムの若い者たちは、アブサロムが命じたとおりにアムノンにした。王の息子たちはみな立ち上がって、それぞれ自分のらばに乗って逃げた。

恋心と愛とは違います。アムノンの心には本当の愛がなかったので、簡単にタマルを嫌いになってしまいました。これもまた罪の結果からくる心の混乱です。タマルはいっそうその悲しみを大き

くし、それがタマルの兄であるアブサロムの憎しみを大きくしました。

彼は後にアムノンに復讐するのですが、そのような憎しみを悟られまいとしたのだと思われます。「何も言わなかった」とあります。ダビデの罪から生まれた家族の痛みはこのような恥ずべき結果となって出てしまいました。

罪は多くの場合、人には分るまいとして犯されるものですが、神様はご存知であり、聖なるこの方は罪を見過ごしにされないということを忘れてはなりません。どんな小さなことでも主に悔い改めて、十字架によって赦され、新しくされることを信じましょう。それが祝福への最短コースです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 水曜

Ⅱ サムエル

13:30 彼らがまだ道の途中にいたとき、ダビデのところに、「アブサロムは王のご子息たちを全員殺しました。残された方は一人もいらっしやいません」という知らせが届いた。

13:31 王は立ち上がり、衣を引き裂き、地に伏した。傍らに立っていた家来たちもみな、衣を引き裂いた。

13:32 ダビデの兄弟シムアの子ヨナダブは、証言をして言った。「王様。彼らが王のご子息である若者たちを全員殺したとお思いになりませんように。アムノンだけが死んだのです。それはアブサロムの命令によるもので、アムノンが妹のタマルを辱めた日から、胸に抱いていたことです。」

13:33 今、王様。王子たち全員が殺された、という知らせを心に留めないでください。アムノンだけが死んだのです。」

13:34 アブサロムは逃げた。見張りの若者が目を上げて見ると、見よ、うしろの山沿いの道から大勢の人々がやって来るところであった。

13:35 ヨナダブは王に言った。「ご覧ください。王子たちが来られます。このしもべが申し上げたとおりになりました。」

13:36 彼が語り終えたとき、見よ、王子たちが来て、声をあげて泣いた。王もその家来たちもみな、非常に激しく泣いた。

13:37 アブサロムは、ゲシュルの王アミフデの子タルマイのところに逃げた。ダビデは、毎日アムノンの死を嘆き悲しんでいた。

13:38 アブサロムは、ゲシュルに逃げて行き、三年の間そこにいた。

13:39 アブサロムのところに向かって出て行



きたいという、ダビデ王の願いはなくなった。アムノンが死んだことについて慰めを得たからである。

アブサロムは憎んでいたアムノンを殺しましたが、ダビデはそれらを厳然と正しく扱うことをしませんでした。そのため今後アブサロムとの争いが生まれるのです。

自分も罪ある身であるというダビデの負い目があったのでしょう。しかしそれでも主のみこころは変わりありません。私たちにおいては、互いに罪を言い表して祈り合うということが大切なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 木曜

Ⅱ サムエル



14:1 ツェルヤの子ヨアブは、王の心がアブサロムに向いていることを知った。

14:2 ヨアブはテコアに人を遣わして、そこから知恵のある女を連れて来て、彼女に言った。「喪に服している者を装い、喪服を着て、身に油も塗らず、死んだ人のために長い間喪に服している女のようになって、

14:3 王のもとに行き、王にこのように話してください。」ヨアブは彼女の口にことばを与えた。

14:4 テコアの女は、王に話したとき、地にひれ伏して礼をして言った。「お救いください。王様。」

14:5 王は彼女に言った。「いったい、どうしたのか。」彼女は答えた。「実はこの私はやもめで、夫は亡くなりました。

14:6 このはしためには二人の息子がおりましたが、二人が野原でけんかをして、だれも二人を仲裁する者がいなかったので、一人が相手を打ち殺してしまいました。

14:7 すると、お聞きください、親族全体がこのはしために詰め寄って、『兄弟を打った者を引き渡せ。彼が殺した兄弟のいのちのために、彼を殺し、この家の世継ぎも消し去ろう』と言います。残された私の一つの火種を消して、夫の名だけではなく、残りの者までも、この地に残さないようにするのです。」

14:8 王は女に言った。「家に帰りなさい。あなたのことで命令を出そう。」

14:9 テコアの女は王に言った。「王様。刑罰は私と私の父の家に下り、王様と王位は罰を免れますように。」

14:10 王は言った。「あなたに文句を言う者

がいるなら、その人を、私のところに連れて来なさい。もう二度とあなたを煩わすことはなくなる。」

14:11 彼女は言った。「どうか王様。あなたの神、【主】に心を留め、血の復讐をする者が殺すことを繰り返さず、私の息子を消し去らないようにしてください。」王は言った。「【主】は生きておられる。あなたの息子の髪の毛一本も決して地に落ちることはない。」

この女はダビデの状況と全く同じようなことで悩みを訴えたのですが、ダビデはそれに気づきませんでした。人はなかなか自分の犯している間違いに気づかないものです。ですから主に教えていただく必要があります。

主はみことばを通して教えてくださいますから、日々のデボーションが何と言っても重要です。もしも自分の必要を感じたときだけのデボーションや祈りであったなら、それでは大切なときに何も得るものがないのです。またデボーションが十分でない場合は、誰かからの指摘によって示される場合もあります。そのようなときは、自分のプライドに固執しないで、謙遜になってよく自分を吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 金曜

Ⅱ サムエル



14:12 女は言った。「このはしために、一言、王様に申し上げさせてください。」王は言った。「言いなさい。」

14:13 女は言った。「あなた様はどうして、神の民に対してこのようなことを計られたのですか。王様は、先のようなことを語って、ご自分を咎める者としておられます。王様は追放された者を戻しておられません。」

14:14 私たちは、必ず死ぬ者です。私たちは地面にこぼれて、もう集めることができない水のようなものです。しかし、神はいのちを取り去らず、追放されている者が追放されたままにならないように、ご計画を立ててくださいます。

14:15 今、私が、このことを王様に話しに参りましたのも、人々が私を脅したからです。このはしのためは、こう思いました。『王に申し上げよう。王は、このはしための願いをかなえてくださるかもしれない。』

14:16 王は聞き入れて、私と私の息子を神のゆずりの地から消し去ろうとする者の手から、このはしのためをきっと助け出してくださるから。』

14:17 このはしのためは、『王様のことは私の慰めとなるに違いない』と思いました。王様は、神の使いのように、善と悪を聞き分けられるからです。あなた様の神、【主】が、あなたとともにおられますように。」

14:18 王は女に答えて言った。「私が尋ねることに、隠さずに答えなさい。」女は言った。「王様、どうぞお尋ねください。」

14:19 王は言った。「これはすべて、ヨアブの指図によるのであろう。」女は答えて言っ

た。「王様、あなたのたましいは生きておられます。王様が言われることから、だれも右にも左にもそれることはできません。確かに王様の家来ヨアブが私に命じ、あの方がこのはしための口に、これらすべてのことばを授けたのです。」

14:20 王様の家来ヨアブは、事の成り行きを変えるために、このことをしたのです。あなた様には、神の使いの知恵のような知恵があり、地上のすべてのことをご存じですから。」

14:21 王はヨアブに言った。「よろしい。その願いを聞き入れた。行って、若者アブサロムを連れ戻しなさい。」

14:22 ヨアブは地にひれ伏して礼をし、王に祝福のことばを述べて言った。「今日、このしもべがご好意を受けていることが分かりました。王様。王が、このしもべの願いを聞き入れてくださったのですから。」

14:23 ヨアブはすぐゲシュルに出かけて行き、アブサロムをエルサレムに連れて来た。

14:24 王は言った。「あれは自分の家に行ってもらおう。私の顔を見ることはならぬ。」アブサロムは自分の家に行き、王の顔を見ることはなかった。

ダビデは自分よりも立場の低い者のことばをも受け入れました。王にとってはなかなかできないことです。誰でも完全なものはありません。苦言こそ謙って聞くべきですし、またそのように自分に言う人に感謝することも大切です。

しかし、ダビデの判断は中途半端でした。アブサロムの心に聞き、彼と心からの和解が必要でしたが、それをしませんでした。そのことが後に大きな災いの種になるのです。誰とでも和解することが大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 土曜

Ⅱ サムエル

14:25 さて、イスラエルのどこにも、アブサロムほど、その美しさをほめそやされた者はいなかった。足の裏から頭の頂まで、彼には非の打ちどころがなかった。

14:26 彼は毎年、年の終わりに、頭が重いので髪の毛を刈っていたが、刈るときに髪の毛を量ると、王の秤で二百シェケルもあった。

14:27 アブサロムに、三人の息子と一人の娘が生まれた。その娘の名はタマルといって美しい女であった。

14:28 アブサロムは二年間エルサレムに住んでいたが、王の顔を見ることはなかった。

14:29 アブサロムは、ヨアブを王のところに送ろうとして、ヨアブのもとに人を遣わしたが、彼は来ようとしなかった。アブサロムはもう一度、人を遣わしたが、ヨアブは来ようとしなかった。

14:30 アブサロムは家来たちに言った。「見よ。ヨアブの畑は私の畑のそばにあり、そこには大麦が植えてある。行って、それに火をつけよ。」アブサロムの家来たちは畑に火をつけた。

14:31 ヨアブは立ち上がり、アブサロムの家に来て、彼に言った。「なぜ、あなたの家来たちは私の畑に火をつけたのですか。」

14:32 アブサロムはヨアブに答えた。「ほら、私はあなたのところに人を遣わし、ここに来るように言ったではないか。私はあなたを王のもとに遣わし、『なぜ、私をゲシュルから帰って来させたのですか。あそこにとどまっていたほうが、まだ、ましでした』と言ってもらいたかったのだ。今、私は王の顔を拝したい。もし私に咎があるなら、王に殺されて

もかまわない。」

14:33 ヨアブは王のところに行き、王に告げた。王はアブサロムを呼び寄せた。アブサロムは王のところにきて、王の前で地にひれ伏して礼をした。王はアブサロムに口づけした。

アブサロムにはかつて異母兄弟アムノンを殺したという罪がありました。父であるダビデにとっては赦しがたいことではありませんでしたが、しかし彼にとっては妹タマルを犯したアムノンに復讐するのは当然と思えたでしょう。

このように争いごとには、誰が良い悪いという明確なものがないのがほとんどです。そこで必要なのは、主のみこころは何であるかという、神様中心の見方です。それがないと、アダムとエバが犯したような「善悪を自分で判断する」という罪に陥るのです。

誰かに対して快くない思いを持っているなら、何よりも自分自身は謙って、神様のみこころを求める必要があります。そうでないとアブサロムのようになってしまうかもしれません。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:1 その後、アブサロムは自分のために戦車と馬、そして自分の前に走る者五十人を手に入れた。

15:2 アブサロムはいつも、朝早く、門に通じる道のそばに立っていた。さばきのために王のところに来て訴えようとする者がいると、アブサロムは、その一人ひとり呼んで言っていた。「あなたはどの町の者か。」その人が「このしもべはイスラエルのこれこれの部族の者です」と答えると、

15:3 アブサロムは彼に、「聞きなさい。あなたの訴えは良いし、正しい。だが、王の側にはあなたのことを聞いてくれる者はいない」と言っていた。

15:4 さらにアブサロムは、「だれか私をこの国のさばき人に立ててくれないだろうか。訴えや申し立てのある人がみな、私のところに来て、私がその訴えを正しくさばくのだが」と言っていた。

15:5 人が彼に近づいてひれ伏そうとすると、彼は手を伸ばし、その人を抱いて口づけしていた。

15:6 アブサロムは、さばきのために王のところにやって来る、すべてのイスラエルの人のようにした。アブサロムはイスラエルの人々の心を盗んだ。

15:7 四年たって、アブサロムは王に言った。「私が【主】に立てた誓願を果たすために、どうか私をヘブロンに行かせてください。

15:8 このしもべは、アラムのゲシュルにいたときに、『もし【主】が私を本当にエルサレムに連れ帰ってくださるなら、私は【主】に仕えます』と言って誓願を立てたのです。」

15:9 王は言った。「安心して行って来なさい。」彼は立って、ヘブロンに行った。

15:10 アブサロムはイスラエルの全部族に、ひそかに人を遣わして言った。「角笛が鳴るのを聞いたら、『アブサロムがヘブロンで王になった』と言いなさい。」

15:11 アブサロムとともに、二百人の人々がエルサレムを出て行った。その人たちは、ただ単に招かれて行った者たちで、何も知らなかった。

15:12 アブサロムは、いけにえを献げている間に、人を遣わして、ダビデの助言者ギロ人アヒトフェルを、彼の町ギロから呼び寄せた。この謀反は強く、アブサロムにくみする民が多くなった。

神の共同体が破壊される、典型的な様子が記されています。指導者に近く信頼されている者が、「人の心を盗」んで、自分に人々をつけるようにするのです。そのためにサタンは、共感や愛の行いまでも利用することがあります。

結局アブサロムは滅ぼされます。主が彼を指導者には選んでいないからです。しかし、ダビデにも彼の心を受け入れなかったという非があるので、ダビデ自身にもその悩みが降りかかります。

主の立てられた指導者に、従いましょう。それは聖書であり、また聖書に従う群れに働く主のご計画です。またそのために立てられた働き人たちです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

